

# 九州アジア観光アイランド総合特区(地域活性化総合特区)の概要

## 国の成長戦略

### 観光立国

【2020年までの目標】  
訪日外国人旅行者を2020年初めまでに2,500万人、将来的には3,000万人に、2,500万人による経済波及効果約10兆円、新規雇用56万人

## 九州の取組・本気度

### 九州観光推進機構

九州一体で観光振興に取り組むべく、官民で資金と人材をだしあって2005年4月に設立した全国初の組織

### 九州ブランドの確立

官民合同の「次期九州観光戦略」策定に向け、チームを結成して、外国人にも伝わる明確な九州観光のブランドイメージを構築中

### クルーズ客船の寄港

アジアからのクルーズ船の寄港地が多く存在。博多港、長崎港、別府港ではクルーズ客船の大型化に対応するための整備を実施

## 九州の強み・資源

### アジアとの距離

福岡から釜山・ソウル・上海はそれぞれ広島・大阪・東京までほぼ等距離であり、対馬と釜山は約1時間で移動可能。九州は韓国と手軽に日帰り旅行ができる地域

### アジアとの歴史

東アジアを介して世界と日本を結びつける交流の窓口となり、日本の歴史や文化の形成に大きな役割を果たした。遣唐使や朝鮮通信使など人の交流、大陸伝来の技術や食文化など

### 多様な観光資源

鉄鋼・造船・石炭産業など日本の近代化の原動力となった産業遺産、阿蘇山や世界遺産の屋久島などの自然遺産、別府・黒川・由布院などの温泉地、九州各地にある豊富な「食」、西日本最大のショッピングエリアである福岡など、多様な観光資源の存在

## アジアからのインバウンド

## 広域観光

### 目標

「観光アイランド・九州」として、成長するアジアのマーケットの観光客を呼び込み、観光需要の喚起、消費の拡大を通じて、地域経済の活性化を図り、ひいては観光立国の推進、日本再生戦略の実現に貢献する。

### 政策課題

#### 九州の特徴

アジアとの近接性と交流実績

外国クルーズ客船の寄港数の上位を占める港

多様な観光資源  
(世界遺産、産業遺産、温泉など)

#### 政策課題①

アジアからの観光客誘致を促進する。

#### 政策課題②

クルーズアイランド九州を推進する。

#### 政策課題③

ニューツーリズムを拡大する。

### 解決策

#### 【アジアからの観光客誘致の促進】

- I 官民協働によるプロモーションの推進
- II アジアからの観光客の出入国の円滑化
- III 外国語対応の充実
- IV 快適な広域観光ができる環境づくり
- V 国際定期航路の利用促進

#### 【クルーズ観光環境づくり】

- VI 港の利便性の向上
- VII 外国語対応の充実(再掲)
- VIII 買い物しやすい環境づくり
- IX クルーズ船の寄港誘致

#### 【ニューツーリズムの推進】

- X 独自の地域資源を活用したニューツーリズムの創出
- XI 体験型・交流型観光の提供

### 特区申請

規制緩和(地域の取組なし)

規制緩和(地域の取組あり)

財政支援

マルチビザの発給(個人観光数次査証)

特区ガイドの養成支援

(研修事業)

(マッチング事業)

留学生の資格外活動許可要件の緩和

無資格ガイド行為の取締り強化

クルーズ客船受入環境の整備

消費税免税対象商品の拡大  
手続き簡素化

専門店での共同販売所の設置

空港、港以外での免税店の設置

公衆無線LANの設置要件の緩和

第三種旅行業者の企画旅行催行区域制限の緩和

#### 数値目標①

アジアを中心とした入国外国人数 411万人 (2016年)

#### 数値目標②

九州における年間旅行消費額 4.2兆円 (2016年)  
(訪日外国人5,800億円)

#### 数値目標③

外国クルーズ客船の延べ寄港回数 280回/年 (2016年)  
延べ寄港者数 40万人/年